

## 1 日時場所

日 時：令和元年 11 月 19 日（火）13 時 30 分～16 時

場 所：函館北洋ビル 9 階 会議室

## 2 結果概要

### (1) 開会挨拶

北海道総合政策部交通政策局交通企課川村課長より挨拶

### (2) 講演「地域交通を取り巻く状況と移動革命に向けた動向」

公益財団法人交通エコロジーモビリティ財団岡本調査役より講演。

講演後、質疑応答。

### 【質疑応答】

#### (函館市企業局)

・現在、様々な企画乗車券が販売されていますが、それらを組み合わせて商品化するという事となると法的な規制があると思いますが、それに対する国の考え方は示されているか。

#### (岡本講師)

・現在、日本においては国の考えというのは出てきていない。

しかし、海外では M a a S の進展や運輸連合のような動きが見られる。この点、日本では独占禁止法の内容についての議論が進んでおり、地方のバス事業者の共同経営などの法改正が早ければ来年度に行われる見込みであり、複数の交通事業者による企画乗車券についても調整がしやすくなると考えられる。

### (3) 実証実験事業の説明

#### ①道南地域における I C T を活用した地域交通利便性向上実証実験事業のねらい

別添資料 2 により、実証実験事業のねらいと背景を説明

#### ②道南地域における I C T を活用した地域交通利便性向上実証実験事業の具体的な進め方

別添資料 3 により、実証実験事業の具体的な進め方を説明

### (4) 質疑応答

#### (道南いさりび鉄道)

・ G T F S を整備するということがあったが、当社では現在も Google マップで検索できる。G T F S を自社整備することで何か変化があるのか。

#### (ウエルネット株式会社)

・いさりび鉄道さんの場合、ジョルダンから提供されるデータを Google マップが採用している。ジョルダンは交通新聞社の時刻表などからデータを作成していると思われる。

・ダイヤ改正があった場合、交通新聞社の時刻表が更新されるタイミングでデータを更新することとなるので即時反映ができないことになる。

・また、経路検索結果はジョルダン経由でも自社整備でも変わらないものとなるが、自社整備の場合は運休情報やお得な乗車券情報を表示させることができるようになる、という違いがある。

・また、今後、ジョルダンが Google マップへのアップロードをやめてしまったりするリスクがあり、また、スマホ検索して出てこない経路は存在しないものと同義とみなされる時代になりつつある。そのような検索データの整備という一番大事なところを他社にまかせてしまうことは不安材料となる。

#### (道南いさりび鉄道)

・函館バスもジョルダンが Google マップにアップロードしているのか？

#### (函館バス)

・そのとおり

#### (道南いさりび鉄道)

・自社整備した結果、交通新聞の時刻表とずれが発生するのは困る。また、函館～五稜郭は J R 北海道が管理しており、五稜郭～木古内はいさりび鉄道。乗り継ぎの関係もあるので、ここで時刻表がずれてしまうと問題となる。

・そのため、G T F S 整備の部分は J R 北海道さんと同じ方法で整備するようにしたい。

・千年手形を提示した人には割引切符を販売しているが、これは運輸局への届出の中で、紙の千年手形を持ってきた人に対して割引販売をすることとなっている。スマホ表示の千年手形ということとなると、再度届出が必要となるのではないか。

(道交通企画課)

・今回のウェルネットからの説明は、まだ案のものであり、こういったものはどうだろう、という提案段階のもの。100点満点をはじめから目指さなくてもいいと考えている。  
・運輸局への届出の要否については確認します。

(5) コメント

各社から一言ずつ、コメントをいただいた。また、その中で質疑応答も行った。

(函館バス)

・Google マップについて、当社はジョルダン経由でアップロードしているが改正点の反映までにやはり2週間～3週間かかる。検索結果が実際のダイヤの時刻と違う、という指摘も受けることがあるので、これを素早く反映できるようになるのがGTF Sを自社で整備するメリットかなと思っている。

(函館タクシー)

・函館空港からのシャトルバスなどがあり、飛行機の離着陸に合わせたダイヤ編成をしている。飛行機の離発着時間の変更となればバスもダイヤ改正を行うため、1ヶ月に1回は改正作業が発生している。

これまでは半月ほど反映が遅れることもあったが、これを自社ですぐに反映させることができるということ。北海道観光振興機構さんのGTF Sのオープンデータ化にも参加しており、また、北海道バス協会が開催したGTF S説明会の中で紹介のあった「その筋屋」も、これが一番簡単にGTF S整備ができるということで試しているところ。どこから手をつければいいのか悩んでいるところ。今回のこの事業は、ウェルネットに時刻表データを渡すとGTF Sを作っていただけるということか。

(道交通企画課)

・観光振興機構には、本事業を道南地域で実施することについて、前もって知らせてある。もしこれから函館タクシーさんが自社でGoogle マップにあげていくというご判断であるならば、Googleへのアップロードはもちろんジョルダンのものよりも自社がアップロードしたものの方が優先される、ということになる。重なっている部分は事業者さんのご意向も聞きながら決めます、ということを観光振興機構に伝えているところ。

(ウェルネット株式会社)

・「その筋屋」は、私も(その前身と言える「新時ダイヤ」を)使ったことがあるが、難解。当方で、バスの時刻やバス停の緯度経度を入力すればGTF Sに変換できるエクセルデータを作っている。このエクセルデータで作ったデータをお渡ししてアップロードしていただきたい。

(北海道観光バス)

・これから、わからないところを勉強しながらやっていきたいが、当社は路線バスが2路線しかなく、決済手段も現金のみ。時代に追いついておらず、これから整理していかなければならないというのが率直な感想。ただし、2路線しかないので、大きな投資は難しいかも知れないが、参加できる場所は参加していきたい。

(大沼交通)

・GTF S整備について、自社整備したGTF SをGoogle マップにアップロードした場合にはタイムラグは発生しないのか。

(ウエルネット株式会社)

・基本的には即時反映だが、ダイヤ改正などの場合には1日~2日かかることもある。ただし運休情報反映の場合には即時反映となる。

(大沼交通)

・Google マップでの検索結果と他のコンテンツプロバイダの検索結果に乖離が生じたりするのではないか。

(ウエルネット株式会社)

・まず、Google マップには(自社整備であれば)大沼交通さんが考えているとおりのダイヤが表示される。また、他のコンテンツプロバイダの場合には、こちらからGTF Sデータを送信したり、又はオープンデータ化するなどのアプローチにより反映を促すことになる。これをしっかり行うことで、使用する媒体によってダイヤが違う、という現象を回避できる。

(函館市電)

・定額企画乗車券のウェブアプリケーションでの購入、決済についてだが、北海道運輸局との調整や、収納代行契約についての函館市役所の中での調整などがあるので、時間がかかるかも知れない。  
・GTF Sの整備についてですが、「その筋屋」を試していたが、運賃面、(特に乗り継ぎの場合)でうまく行かなかった。乗り継ぎ割引もうまくいかないことが多かった。  
・市電では沿線でイベントがあった時などに臨時便が出ることがあるのでGTF Sを活用していきたいが、今回の事業におけるGTF Sの進め方を今回伺ったので検討していきたい。  
・役所であることから時間がかかることもあるので、先にエクセルのツールを提供いただけるとありがたい。

(JR北海道)

・周遊券の情報提供、リンク先がどうしてもオフィシャルページに飛べないという社内ルールあり。オフィシャルではないが周遊券を紹介するページを今作っているが、2月か3月の公開となりそう。  
・情報提供してくれ、ということですが、どのような手段でいつまでにどれくらいの情報が欲しいの教えていただきたい。

(ウエルネット株式会社)

・リンク先については2月か3月ということであればできた段階で公開するか、オフィシャルではないところがあるのであればいったんそこに、という考え方もある。  
・Google 契約のステップについて簡単にまとめているので、担当者様に後ほどメール送付する。このメールのアドレスに画像データ・意見等を提供いただきたい。

(道交通企画課)

・旅するパスポートについてですが、事務局である北斗市とも相談しどこにリンクするか検討していきたい。

(JR北海道)

・実証実験期間が2月末までだが、Google マップの経路検索結果で表示される【千】【市1】【市函】などの表示は消えてしまうのか？

(ウエルネット株式会社)

・実証実験を皆様で継続していくということであればそのまま残すこともできる。実証実験を2ヶ月間で終わるというご判断であれば、例えばこの部分は会社のトップページのリンクなどに置き換えることができる。

(道南いさりび鉄道)

・千年手形について、当社では「千年手形オプション切符」を販売している。千年手形1枚につき1回、割引切符を購入できるというもの。紙の千年手形の場合は、割引切符を買ったことを証明するために、千年手形の裏面に判子を押している。今回のウェブアプリケーションで、スマホ上でこの判子を押すなどの機能(又はパスコードなどを入力させ2回以上使えないようにする機能など)

はあるのか。

(ウエルネット株式会社)

・一度使ったものを「消し込む」という機能は検討はしているが、1月からの実証期間には間に合わない。

(道南いさりび鉄道)

・当社というよりも割引切符を販売している道の駅の窓口での操作になると思うのでご検討いただきたい。

(道交通企画課)

・1月2月には間に合わないかも知れないが、技術的には「消し込み」は可能だと思うので、今後のこととして相談させてほしい。

(ウエルネット株式会社)

・当社の開発とも相談し、対応を考えたい。

(ハートランドフェリー)

・現在、Google マップではルートを表示のみができる状態。  
・料金や時刻表は検索結果に表示されないので、今回の事業で整備していきたい。  
・当社のリンク先がウェブ予約トップページとなっているが、例えば会社のトップページなどに変更できるか。

(ウエルネット株式会社)

・可能。Google マップのテスト環境なども試してみて、適切なページを指定していただければよいと考えている。

(ハートランドフェリー)

・当社も、道南いさりび鉄道と同じように千年手形で割引乗車券を販売しているので、消し込みの問題が生じるのでよろしくお願ひしたい。

(津軽海峡フェリー)

・G T F S で欠航した場合に、ダイヤとはまったく別の臨時便を運航している。これは Google マップで表示することができるか。

(ウエルネット株式会社)

・臨時便を経路に即時反映させることは難しい。例えば、欠航した便の経路検索結果の中で運休中であることをお知らせすると同時に、臨時便情報のウェブページのリンクを張る、などの対応は可能。

(共栄運輸)

・フェリーには定員が定められている。定員を超えれば乗れないこともある。  
そのような情報を G T F S で表示することはできるか。

(ウエルネット株式会社)

・理論上は、運休情報と同じように経路検索結果に「満員のお知らせ」などを表示することも可能だが、それを随時行っていると事務処理が煩雑になりすぎるため、現実的ではない。

(北日本海運)

・効果の検証はどのように行うのかお伺ひしたい。

(ウェルネット株式会社)

・経路検索の表示回数やオフィシャルページのリンクをアクセス数などで効果測定できると考えている。

(北日本海運)

・青函フェリーでは事前決済システムを改良中なので、現在は現地払いのみ。どのような効果検証ができるか。

(ウェルネット株式会社)

・今後の進捗に応じて相談、検討していきたい。

(6) 事務局・講師から一言

(川村課長)

・事業の内容に関してご意見をいただきありがとうございます。  
個別に相談させていただきながら、対応できるものは速やかに対応していき、  
来年1月からの実証実験がより良いものとなるよう努力するのでよろしくお願いしたい。

(岡本講師)

・今回の取組では、おそらく日本初であろうと思うことが2点ある。  
・一点目、(バス以外の) 様々な交通モードがG T F S整備をしようとしている点。沖縄では水牛のG T F Sなんていうものもあるが、フェリーも含むG T F S整備は多分初だろう。  
・二点目は、定額企画乗車券。各社が調整しながら一つのものを作っていくということは大変なことで、この事業の取組が先進事例になるのかな、と思っている。

～終了～